

オーケストラ・フィルジツヒ 第15回演奏会

2020年1月19日(日)

開場 13:30 開演 14:00

ふくしん夢の音楽堂

(福島市音楽堂) 大ホール

全席自由 一般 1,000円 高校生以下 800円

※未就学児は無料 (母子室あります。)

芸術監督・指揮：

嶋津武仁

指揮：

高橋裕之

ヴァイオリン独奏：

伊藤光敦

L.v.ベートーヴェン

「エグモント」序曲 作品84

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61

交響曲第8番 ヘ長調 作品93

チケット取扱い

ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)、福島テルサ、
とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)、
日野屋楽器店、中合福島、
ダイユーエイトMAX福島店サービスカウンター

主催：オーケストラ・フィルジツヒ

後援：福島市、福島市教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、
ラジオ福島、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、
テレビユー福島、ふくしまFM、福島コミュニティ放送FMポコ

協賛：株式会社パナナ

お問い合わせ：pfirsich@pfirsich.jp

ウェブサイト：https://pfirsich.jp/

ご来場の際はなるべく公共交通機関を
ご利用ください。



当団は、毎回演奏会を行う「コンセプト」を設定し、それに基づいてプログラムや内容を決めています。今回のコンセプトは、短く言えば「明るい未来への志向」です。と言っても、これまで当団が根底に大切にしてきた古典作品を中心に上げるスタイルはそのままに、演奏会を行う2020年に生誕250年を迎えるベートーヴェンの音楽だけでまとめることにしました。

なぜ「未来志向」なのかと言いますと、前回、2019年3月10日の第14回演奏会は震災8年目の直前で、必然的に震災復興祈念をコンセプトとしたものになりましたが、今回は新しく元号が変わって最初の、そして年の初めの1月の演奏会ということがその最も重要な根拠です。明るい曲想の交響曲第8番をメインに取り上げたのもその理由によります。さらにこれからの活躍が期待される若手ヴァイオリニストの伊藤光敦(てるのぶ)さんをソリストにお迎えして、大作であるベートーヴェンの協奏曲を弾いていただきます。

当団はもともと、オリジナルアレンジによるアンコール作品や小・中学生の共同作品、あるいは当団芸術監督の嶋津武仁の初演作品などの演奏でクリエイティブな姿勢を示してきました。前回からはじめた嶋津武仁と高橋裕之の2人の指揮によるコンサート形態も継承しています。ベーシックな考えを大切にしながらも、新しい要素を取り入れながら拡大していく、拡張的根本理念とクリエイティビティを大切にしていこうものになっています。

芸術監督・指揮：嶋津武仁



静岡県に生まれる。作曲を甲斐説宗、指揮を伊藤栄一らに師事。1977年ドイツへ留学。ベルリン芸術大学にて作曲をイサン・ユンに、指揮法および総譜奏法をD.ポルフに師事。

ゲバントハウス管弦楽団、DAAD、ISC M「世界音楽祭」や英二現代舞踊団、日本舞踊西川宗家、及び洋楽器、邦楽器奏者などより作品を委嘱。

米ジョージア大学客員教授（00年）。

ザールブリュッケン音楽祭（03年）、

ドレスデン音楽祭（05年）、プロツワフ音楽祭（06年）、北京国際電子音楽祭（08年）、台湾国際電子音楽祭（09年）、ミュージック・フロム・ジャパン音楽祭（12年、ニューヨーク）、国際現代音楽協会「世界音楽の日」（16年、韓国）などに入選作品。

作品のLP、CDが日本をはじめ、アメリカ、ドイツ、メキシコ、フランス、スイス各国で出版。ブライトコップ&ヘルテル社、F.ホフマイスター社、等より楽譜出版。

福島大学名誉教授。

指揮：高橋裕之



福島市出身。県立福島高校卒業。福島大学大学院音楽教育専修（作曲・指揮）修了。

大学在学中より竹澤嘉明氏の指導の下、声楽研究会学内オペラ公演を指揮してオペラ制作の魅力に触れる。その後、オペラ「乙和の椿」（東京文化会館）で副指揮者を務めたことをきっかけに、本格的に指揮の研鑽を積み始める。これまでに嶋津武仁、故K・レーデル、井上宏一、本多優之（指揮法）の各氏に師事。

また、国内・欧州においてマスタークラスを受講しディプロマを取得。2016年、スタラ・ザゴラ州立歌劇場（ブルガリア）にて「椿姫」を指揮、欧州にてオペラデビュー。また、2017年秋に行われた福島市制110周年記念事業オペラ「乙和の椿」の上演では、『音楽の友』誌上で好評を受けている。これまでにドレスデン音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・ジャポン、名古屋芸術大学コンサート等に出演するなど各地で精力的に活動をしている。

現在、福島東稜高校芸術科教諭・福島県立医科大学非常勤講師。



ヴァイオリン独奏：伊藤光敦

1996年イギリス・ロンドン生まれ。5歳よりヴァイオリンを始める。福島大学附属中学校、国立音楽大学附属高等学校を経て、国立音楽大学ヴァイオリン専攻を首席卒業（「矢田部賞」受賞）、卒業演奏会、第88回読売新人演奏会に出演。これまでにヴァイオリンを大関博明、風岡優、青木高志の各氏と、そのほかに師事。第21回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会にて審査員特別賞を受賞。KOSMA 主催第4回こうべ音楽の街オーディションに合格し、神戸・仙台で演奏、好評を博した。第21回日本演奏家コンクール入選。舞台ダンスミュージカル「Dance With Me」のバック・ヴァイオリニスト。Gordon Quartet of the 1st Violin 奏者。第5回演奏会より String Ensemble “Bonheur” のコンサートマスター。正式本名は Terunobu Gordon Itoh。

Orchester Pffirsich オーケストラ・フィルジッヒ

オーケストラ・フィルジッヒは、福島県に縁のある器楽奏者を中心に2003年に創立された非常設のオーケストラです。諸事情により恒常的なオーケストラ活動が困難な人、音楽教室の講師、各地の市民オーケストラに所属している人などにより構成され、音楽を愛する人の新たな交流の場となっています。そして限られた練習回数の中で、より質の高い演奏を行うことを目標に活動しています。

芸術監督に作曲家で福島大学教授の嶋津武仁氏、常任指揮者に福島市出身で新進気鋭の高橋裕之氏を迎え、2004年2月に初の演奏会を開催。以来、バロックから現代まで、交響曲からオペラまで、様々な時代・ジャンルの曲に取り組んでいます。2014年2月の第10回演奏会ではベートーヴェンの「第九」を、福島市内の高校生を中心として編成された合唱団コア・フィルジッヒと共演、大きな喝采を博しました。

楽団名となっている「フィルジッヒ (Pffirsich)」=桃は福島の名産品です。その花が美しく咲き、香りが風に乗って届くように、また、その果実の豊かな味わいが人を喜ばせるように、当楽団の存在が、音楽を愛する全ての人々にとって歓迎されるようにとの願いが込められています。